

中三 『旅への思い』

㊦ おくのほそ道

問一 『おくのほそ道』を書いた人物の名前を漢字で書きなさい。

問二 この作品の書かれた時代はいつか。

問三 この旅で筆者が辿ったルートを最初から最後まで順に書きなさい。

問四 「旅に病んで夢は枯野をかけめぐる」の句の季語と切れ字を答えよ。また何句切れか。

問五 この句はどんな思いを詠った句か。

問六 筆者にとって旅とはどのようなものか。

㊧ 旅立ち

問一 「百代の過客」とは何か。

問二 「江上の破屋」とは何を指しているか。また、同じものを指している語を二つ探し、抜き出しなさい。

問三 筆者が旅立ちにあたって準備したことを四つあげなさい。

問四 「草の戸も住み替はる代ぞ雛の家」の句の季語と切れ字を答えよ。また何句切れか。

問五 この句の「雛の家」のような表現技法を何と言うか。

問六 この句はどんな思いを詠った句か。

㊨ 平泉

問一 「三代の栄耀一睡のうちにして」の「一睡」とはどういう意味か。また、このような儂さを表現した別の部分を探し、抜き出しなさい。

問二 「三代の栄耀」を築いた人物の名前を答えよ。

問三 「義臣」とはどのような意味か、また誰を指しているか。

問四 「国破れて山河あり 城春にして草木深し」のから始まる詩は誰の何と言う詩か。

問五 「夏草や兵どもが夢の跡」の句の季語と切れ字を答えよ。また何句切れか。

問六 この句で使われている表現技法を全て答えよ。また、どこに使われているか。

問七 この句はどんな思いを詠った句か。

#### ④ 立石寺

問一 立石寺に行ったきっかけは何か。

問二 「その間」とはどことどこの間か。

問三 「岩に巖を重ねて」とはどのような様子か。

問四 「岩にしみ入る」の主語は何か。

問五 この文章で、作者の気持ちを最もよく表した一文を抜き出さない。

問六 「閑かさや岩にしみ入る蟬の声」の句の季語と切れ字を答えよ。また何句切れか。

問七 この句で使われている表現技法を全て答えよ。また、その表現技法はどこに使われているか。

問八 この句はどんな思いを詠った句か。